

## 令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立第十一中学校 校長 高田 はつほ

## 1 学校教育目標

- ① 広い視野に立ち深く考える人になろう。
- ② あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- ③ すすんでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- ④ 健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

## 2 学校図書館の目標・ねらい ー身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度ー

- ①学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、心豊かな生徒を育てる。
- ②学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- ③学校図書館を活用し、自分を表現できる生徒を育てる。
- ④読書に親しみ、読書習慣をもった生徒を育てる。

## 3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 14,544冊（蔵書基準冊数 13,600冊）／蔵書率 107%									
	② 新規購入図書 750冊／廃棄図書 712冊／増減冊数 38冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	3%	2%	10%	10%	9%	5%	2%	10%	5%	44%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間： 開館時間：昼休み（13:15～13:35）放課後 17:00 まで									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 6.5冊（前々年度末：5.2冊）									
	③ 学校図書館利用率 116.8%（前年度末：72.4%）									

## （令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 14,154冊（蔵書基準冊数 13,600冊）／蔵書率 104%									
	② 新規購入図書 848冊／廃棄図書 1,238冊／増減冊数 390冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	3%	2%	9%	10%	9%	5%	2%	10%	5%	45%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：昼休み 13:15～13:35 放課後～17:00（前年度からの変更 あり・ <del>なし</del> ）									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 5.7冊（前年度末：6.5冊）									
	③ 学校図書館利用率 89.7%（前年度末：116.8%）									

## 4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。									
	② 学校図書を活用した探究活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。									
	③ 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。									

今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、授業以外でも主体的に学校図書館を活用して、読書をすることができる。	① 第1学年の生徒1人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加率50%以上 ③ 学校図書館オリエンテーションを全クラスで実施する。
② 図書館の本や新聞等を活用しながら探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。	
③ 学校図書館のきまりや仕組みを知る。	

目標達成状況
①生徒一人当たりの年間貸し出し冊数は前年比88%だった。
②「図書館を使った調べる学習コンクール」は一年生の夏の課題として100%の生徒が参加し、4人が学校賞を含め、表彰された。
③第一学年全クラスで実施した。

<b>第2学年</b>	① 様々な読み物を読もうとする意欲を育てる。 ② 課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③ 学校図書館にある資料を把握して活用できる姿勢を身につけさせる。
<b>今年度の成果目標</b> ① 休み時間や放課後の時間等、授業以外でも主体的に学校図書館を活用して、読書を行うことができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③ 課題に沿った資料を学校図書館で探し出すことができる。	<b>達成基準</b> ① 第2学年の生徒1人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加率50%以上 ③ 学校図書館を利用して取り組む課題（または授業）を、各クラス年1回は設ける。
<b>目標達成状況</b> ① 生徒一人当たりの年間貸し出し冊数は前年比88%だった。 ② 今年度は「図書館を使った調べる学習コンクール」には参加しなかった。 ③ 授業ではクロームブックを活用して探求を行うことが増えたため、図書館で本を探す生徒は多くはない。	
<b>第3学年</b>	① 読書をとおして考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ② 学校図書やICT機器を活用した探究活動を通して、言語能力の育成を図る。 ③ 学校図書館のよりよい活用の仕方を自ら考えることができる力を育てる。
<b>今年度の成果目標</b> ① 休み時間や放課後の時間等、授業以外でも主体的に学校図書館を活用して、読書を行うことができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③ 各自の探究活動に応じた学校図書館の使い方を自ら考えることができる。	<b>達成基準</b> ① 第3学年の生徒1人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加率50%以上 ③ 探究活動に関わる課題（または授業）を、各クラス前期後期で1回ずつ設ける。
<b>目標達成状況</b> ① 読書好きな生徒は毎日のように図書館を利用した。新聞を読みに来る生徒が現れたのが良い傾向であった。 ② 調べる学習コンクールは参加しなかった。 ③ 探究活動で図書館を使うことは多くはない。	
<b>5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果</b>	
<b>取組計画・方針</b>	<b>成果・効果</b>
<b>【蔵書・配架等に関すること】</b> ・蔵書点検を実施する。 ・学級文庫の本を入れ替える。	・学校司書が点検を実施し、生徒は選書しやすくなった。 ・一年に三回本の入れ替えを行っており、生徒も朝読書の時間を使って読書した。
<b>【学校図書館支援員との連携・協働】</b> ・図書委員会に参加してもらい、学年別の図書だよりの作成において支援してもらう。 ・教科や学年の行事の際に資料の収集や提供をしてもらう。 ・新入生に図書館の利用の仕方のオリエンテーションを行う際に支援してもらう。	・毎回委員会に参加し、読書を推進するために手作りしおりを作製させるなど、生徒の興味関心をひく案を提案し、活性化を図った。
<b>【その他】</b> ・学校図書館クラスルームを作成し、情報発信などに活用する。 ・区内図書館からの貸し出しを受ける。	・クラスルームを作成し、購入希望アンケートをとったり、教員や図書委員の推薦する本の紹介をしたりするなど、積極的に情報を発信した。

## 6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

図書担当教員と学校司書が連携し協力しながら読書活動の推進に取り組んだ。

図書を大幅に入れ替えることができ、多くの新刊を用意することができた。学校司書が作成するライブラリーニュースや図書委員が作成する図書だよりで新刊やおすすめの本を紹介し、借りる人が多くなるよう努めた。また、図書委員を中心に、スタンプラリーを行ったりしおきをプレゼントしたりして、利用者が増えるような取り組みもした。また、「図書館を使った調べる学習コンクール」に一学年が取り組み、学校図書館を活用した。生徒が自ら設定した課題を考察し解決する探究活動に取り組み、自分の考えを表現する力の育成に力を入れることができた。

クロームブックで調べることが増えたので、授業で学校図書館を活用する機会が減っている。多くの教科で図書館を活用するよう図書担当教員と学校司書が協力して働きかけを行っていく必要がある。大多数の生徒が朝読書の習慣を身につけているが、家庭やその他の時間まで使って読書する者はまだ多くないと思われる。学校図書館を活用した授業を多くしたり、読書の魅力を伝えるようなキャンペーンを実施したりするなど、生徒が学校図書館に関わる機会を多くして読書に親しむ機会を増やす。また、図書館内の展示や掲示を充実させたり、図書館だよりやお昼の放送、クロームブックのクラスルームを活用してこまめに情報発信したりすることで、生徒の興味や関心を喚起していきたい。図書館を訪れた際には利用しやすく居心地がよいと思われるような環境にしていく。

授業において学校図書館を活用する機会を多くするためにも、学校長の指揮の下、学校全体に学校図書館基本計画を浸透させることで、学年や教科の枠を越えて教員が連携し協力しながら学校図書館の利用を活性化していける体制を構築していく必要がある。

以上の取り組みを通して、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能を発揮させ、生徒が主体的に学校図書館を活用して読書し学習する環境を整えていきたい。

## 7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

教科・領域にとらわれず、様々な場面での活用促進を望む。